

あいち サーキュラーエコノミー 推進プラン



● 策定の趣旨

世界的な資源循環分野の課題である過度な採取による天然資源の枯渇、大量生産・大量消費による廃棄物量の増加、プラスチック問題などを解決していくためには、循環型社会の形成をさらに加速していく必要があります。

本プランでは、これまでの3Rを核とした取組に加え、資源を有効に循環利用し、資源投入量、廃棄物発生量を限りなく小さくする「サーキュラーエコノミー（循環経済）」への転換による循環ビジネスの進展を図ります。

● プランの位置づけ

「あいちビジョン2030」、「第5次愛知県環境基本計画」に基づき、循環ビジネスを中心とした本県の資源循環に関する施策と取組を示す計画として位置付けます。

● プランの期間

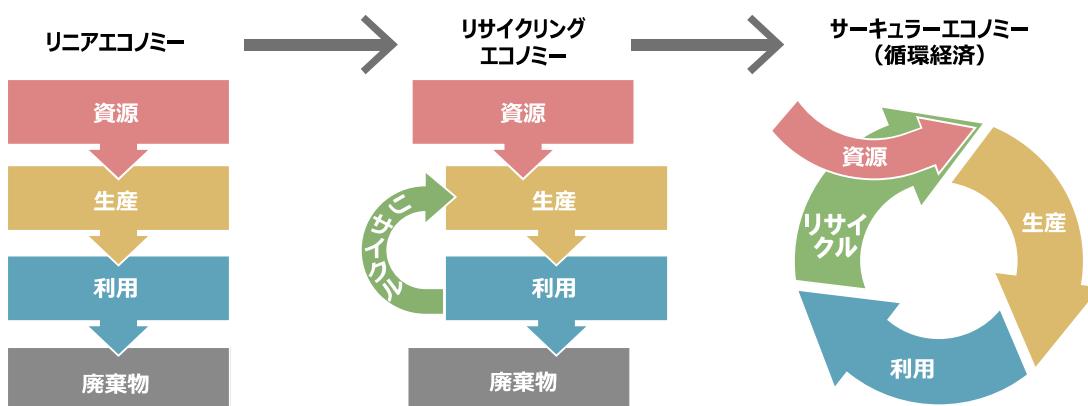
2022年度から2031年度までの10年間を計画期間としています。

社会情勢の変化など、必要に応じて見直しを行います。

サーキュラーエコノミーとは

サーキュラーエコノミーとは、「従来の3Rの取組に加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑止等を目指すもの」で、温室効果ガスの排出やエネルギーの使用の抑制にもつながります。

サーキュラーエコノミー型の循環ビジネスは、コストの改善、技術・サービスのイノベーションの加速、新たな循環ビジネスの創出などの効果も期待され、先導的で高度なりサイクル技術・事業に取り組んできた本県の事業者にとっては大きなビジネスチャンスとなります。



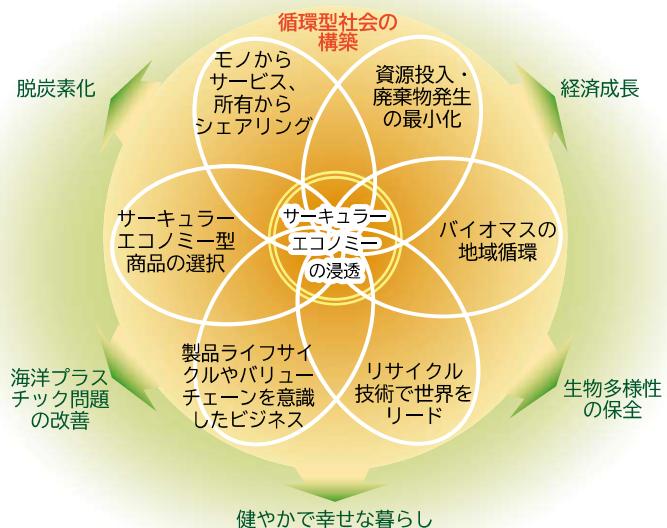
「Circular Economy in the Netherlands by 2050」をもとに愛知県が作成

目指す愛知の未来

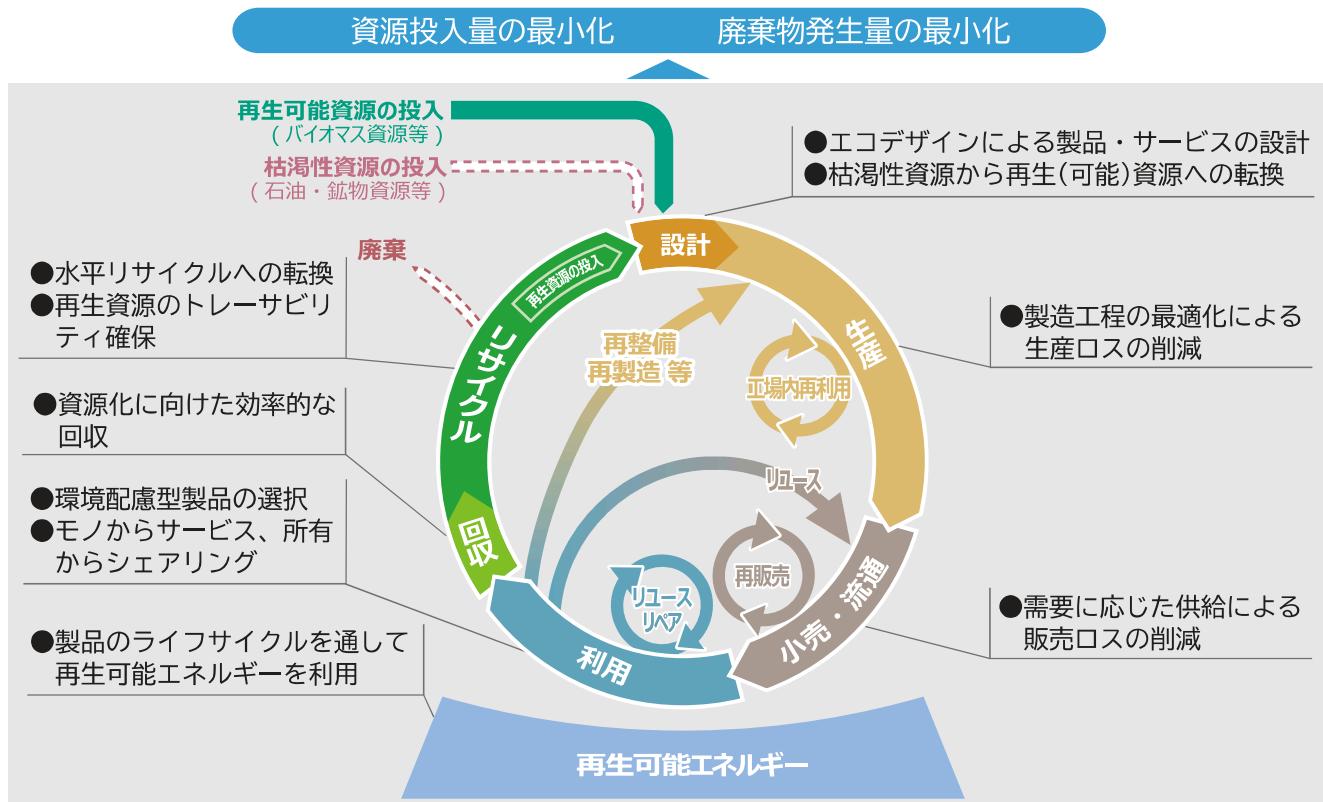
サーキュラーエコノミーが浸透した循環型社会による 環境負荷が最小化された「環境首都あいち」

エコデザイン、ストックの有効活用、サービス化などにより、資源投入量や廃棄物発生量を最小化するサーキュラーエコノミーの考え方が浸透した「循環型社会」の形成を目指します。

また、循環型社会の形成を通じて、自然システムが再生され、環境負荷が最小化された「環境首都あいち」を実現し、環境と経済、社会との統合的向上が図られた「持続可能な社会」につなげていきます。



サーキュラーエコノミーによる循環型社会の形成のイメージ



製品のライフサイクルを事業者間のバリューチェーン全体で考え、設計・生産からリサイクル、廃棄までの各段階で、資源の有効利用や再生可能エネルギーの活用など、可能な限り環境負荷低減を図る取組を適切に行うことが重要となります。

プランの目標

サーキュラーエコノミーへの転換と3Rの高度化による循環ビジネスの進展

「目指す愛知の未来」の達成に向けて、今後10年間でサーキュラーエコノミーへの転換やこれまで培われてきた3Rの技術・取組の高度化等を進め、プラスチックや太陽光パネル等の新たな課題を解決する循環ビジネスの進展を図ります。

- 製品のライフサイクルを通して、動脈産業と静脈産業の連携など県内産業のパートナーシップによるサーキュラーエコノミー型の循環ビジネスへの転換を図る取組を進めます。
- 廃棄物の削減や再生資源の生産性向上を図る3Rの技術・事業の高度化を促進するとともに、動脈産業と静脈産業をつなぐビジネスの創出やリソーシング産業への展開など、新たな循環ビジネスの創出を図ります。
- サーキュラーエコノミー、ESG経営等の理解を深め、企業戦略として位置づける事業者の拡大を図るなど、人材育成や情報発信を進めます。
- サーキュラーエコノミーへの転換を進めるため、事業者、経済団体、金融機関、大学、行政など多様な主体が連携した循環ビジネスの環境づくりを行います。

あいち資源循環推進センター

2006年5月、产学研行政の協働拠点として県庁西庁舎に開設。

環境技術や循環ビジネスの豊富な知識・経験を持つ「循環ビジネス創出コーディネーター」を配置し、経済団体や大学等との幅広い連携体制により、新たな循環ビジネスの発掘、事業化から円滑な事業継続まで一貫した支援を行っています。

あいち資源循環推進センターによる支援の仕組み



サーキュラーエコノミー

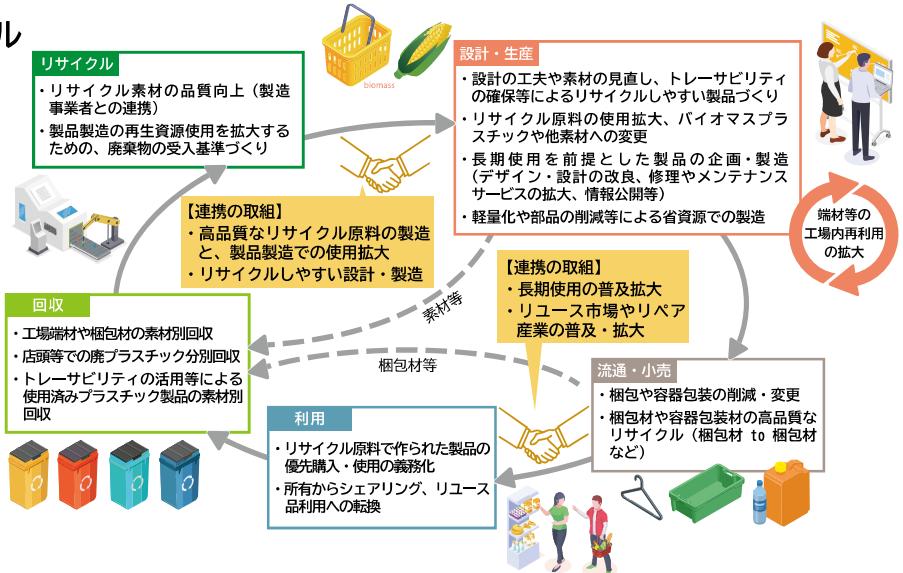
- プラスチックや太陽光パネルなどを県内で循環利用するため、本県の地域モデルを展開するプロジェクトチームを設立するとともに、民間活力による

■プラスチック循環利用モデル

廃プラスチックのマテリアル利用、ケミカル利用を高めつつ、プラスチックの価値を維持する技術や仕組みを構築します。

<取組例>

- 梱包材の水平リサイクル
- トレーサビリティを活用した高度なリサイクル
- OA機器や事務機器等のリユース拡大

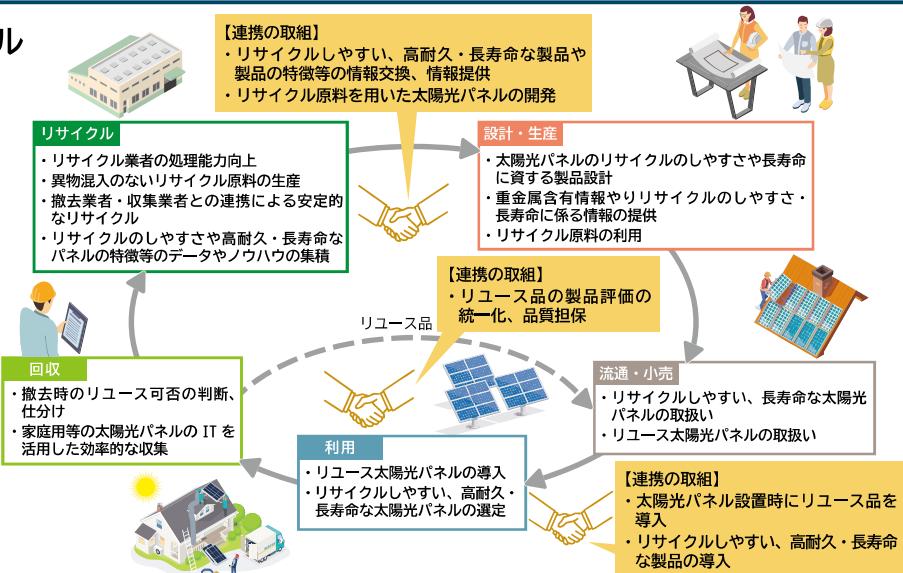


■太陽光パネル循環利用モデル

太陽光パネルの大量廃棄を見据え、処理施設と連携した処理体制の構築やリユース製品としての活用など、広域的な取組を進めます。また、再生ガラスが循環利用されるよう用途開発を進めます。

<取組例>

- 太陽光パネルのリユース
- 太陽光パネルのリサイクル

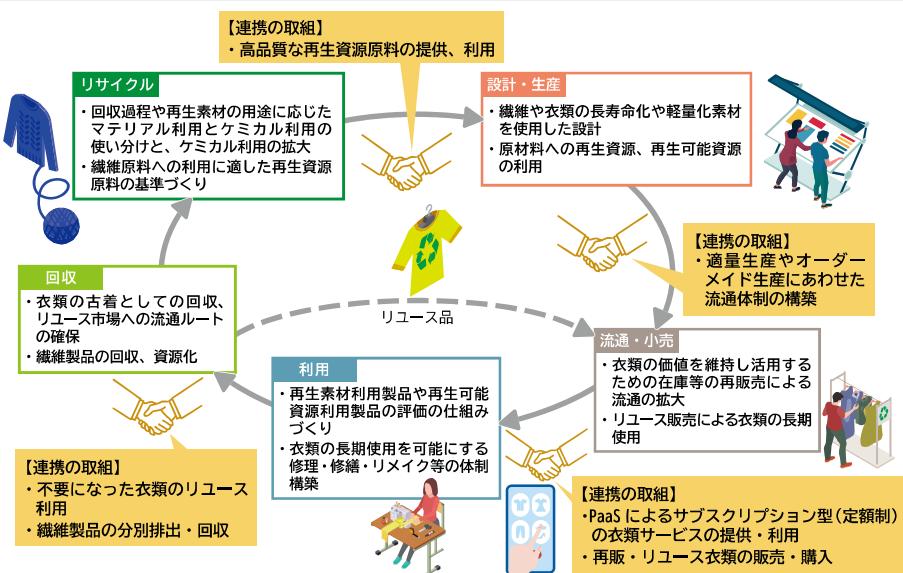


■繊維・衣類循環利用モデル

県内の繊維産業による古くからのリユースやリサイクルの取組を活用し、繊維製品のライフサイクルを通じた循環利用を進めます。

<取組例>

- 繊維 to 繊維リサイクルの拡大
- 衣類の有効利用拡大
- 衣類のオンデマンド製造の展開



推進モデルの展開

特性や産業のポテンシャルを生かしたサーキュラーエコノミー推進モデルを創設します。

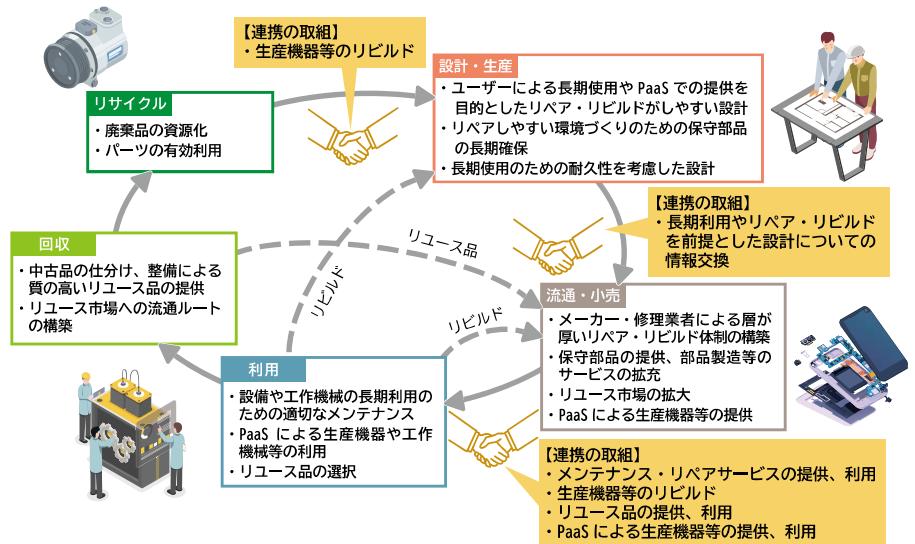
事業化を支援し、サーキュラーエコノミーの取組を県内全域で進めます。

■リペア・リビルドモデル

長期利用される生産機器や工作機械、事業用空調設備、建築物などの更なる長期使用を可能にするため、リペアが行いやすい仕組みづくり、リビルドの普及を進めます。

<取組例>

- ①リペア・リビルド体制の構築
- ②PaaSによる機器・設備等の提供

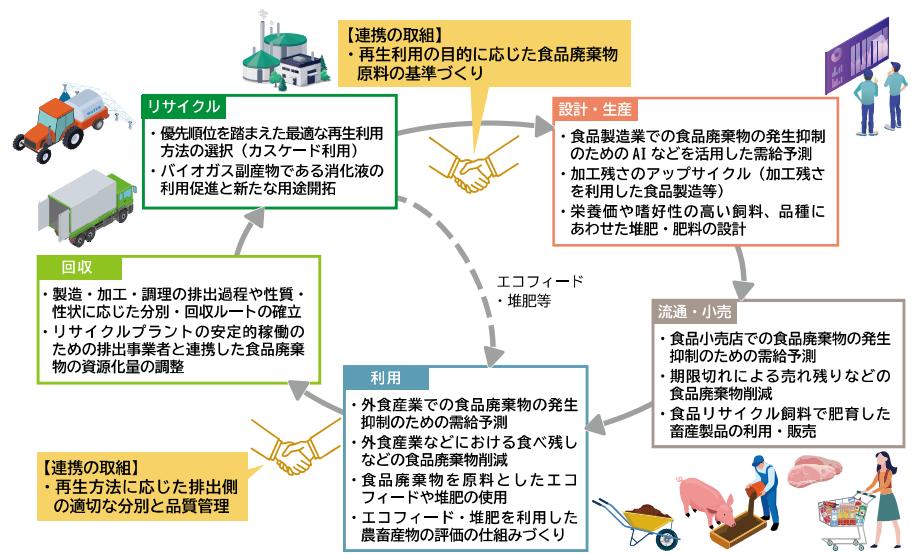


■食品循環利用モデル

食品リサイクルによる飼料化や肥料化の取組を進め、バリューチェーン全体で、食品廃棄物を削減する仕組みを構築するとともに、性質・性状に応じた適正な循環利用を進めます。

<取組例>

- ①食品廃棄物を活用した飼料の高付加価値化
- ②食品廃棄物のバイオガス化によるエネルギー利用
- ③食品循環ループの構築

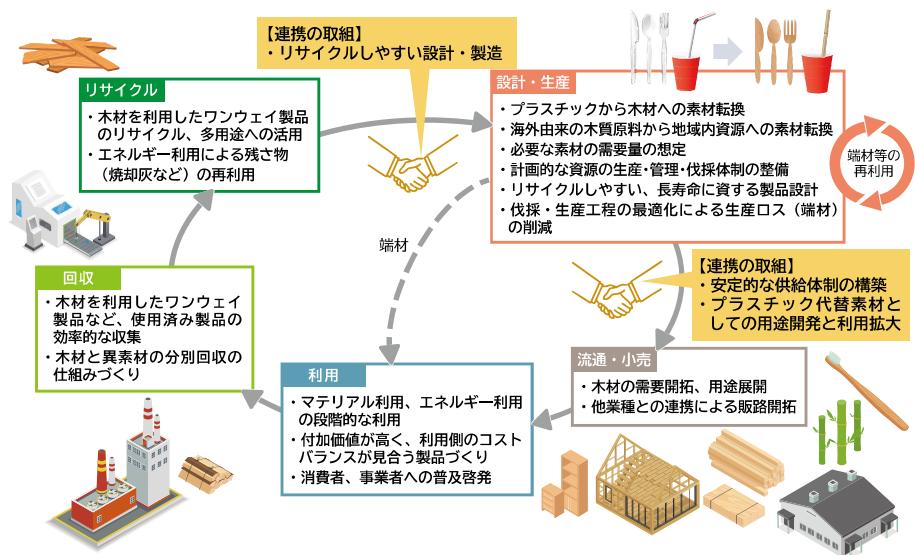


■未利用木材循環利用モデル

未利用木材のマテリアルからエネルギーまでの段階的な利用やプラスチックから木材への代替を進めるなど、木質バイオマスの循環利用を進めます。

<取組例>

- ①竹の価値向上と有効利用の拡大
- ②剪定枝等の活用



施策と主な取組

「あいち資源循環推進センター」を拠点として、4つの施策と主な取組を進めます。

施策1 サーキュラーエコノミー推進モデルの展開



(1) サーキュラーエコノミー推進モデルの創設

- ・ 本県の産業特性を生かし、プラスチック等の社会的課題を解決するリーディングモデルを創設

(2) プロジェクトチームの設立

- ・ 推進モデルのプロジェクトチーム設立によるモデルの具体化を推進

(3) 事業者連携による取組への事業化支援

- ・ バリューチェーンなど民間活力による連携した取組を支援

施策2 循環ビジネスの振興支援



(1) 循環ビジネスの発掘・創出・事業化支援

- ・ あいち資源循環推進センターによる相談・技術指導など循環ビジネスを総合的に支援
- ・ 循環型社会形成推進事業費補助金により、設備整備や事業化検討等を支援



(2) 循環ビジネスの事業継続・普及展開支援

- ・ 展示会を通じて、循環ビジネスの販路拡大支援などの普及展開を支援
- ・ 愛知環境賞により、優れた技術・事業及び活動・教育の取組を表彰、優良事例を紹介

施策3 人材育成・情報発信



(1) 人材育成

- ・ あいち環境塾により、持続可能な社会づくりに向けた活躍するリーダーを育成
- ・ 自治体職員を対象としたセミナー等を開催



あいち環境塾の様子

(2) 情報発信

- ・ サーキュラーエコノミー型ビジネスを紹介するスタートアップブックによる普及啓発
- ・ あいち資源循環ナビによるサーキュラーエコノミーや循環ビジネスに関する情報発信
- ・ 県庁西庁舎の展示コーナーによる循環ビジネスに関する様々な情報発信

施策4 多様な主体との連携



(1) サーキュラーエコノミー型ビジネス創出研究会の共同開催

- ・ サーキュラーエコノミー型ビジネスへの転換に必要な施策や支援等を検討

(2) 事業者連携の促進

- ・ あいち資源循環ナビによりマッチングシステムを運用



あいちサーキュラーエコノミー推進プラン 概要版

2022年3月策定

愛知県環境局資源循環推進課

(あいち資源循環推進センター)

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

TEL. 052-954-6233 FAX. 052-953-7776

E-Mail junkan@pref.aichi.lg.jp

URL <https://aichi-shigen-junkan.jp/>